



農工通信



第75号

<http://www.tuat.ac.jp/~dousou/>


本年4月、専門職大学院「技術経営研究科」技術リスクマネジメント専攻が開設されました。第1期生は、49名の入学生のうち、社会人学生が60%以上に達し、幅広い職歴・教育歴をもった社会人学生が入学しています。この写真は、4月9日のオリエンテーションの様子です。

も く じ

○ あいさつ	
学長に就任して……………	2
副学長……………	3
○ 平成16年度卒業式・修了式祝辞 ……	4
○ 平成17年度入学式祝辞 ……	4
○ 卒業生の声 ……	5
○ 研究紹介	
最適化問題ソルバに関する現状について…	6
○ 解説	
北シベリア永久凍土における	
マンモス・微生物調査探検プロジェクト ……	7
○ 寄稿	
武蔵野で演出する楽農社会……………	9
○ 第42回通常総会開催さる ……	11
○ 同窓会の個人情報の保護に	
関する対応について……………	14
○ 平成16年度学生援助事業実施一覧 ……	15
○ 新たに迎えた正会員 ……	16
○ 部会・支部・クラス会だより ……	22
○ 掲示板 ……	27
専門職大学院「技術経営研究科」開設……………	27
小金井キャンパス120年史の発刊と頒布 ……	27
農工大全OB囲碁会のお知らせ……………	27
平成17年版同窓会会員名簿発行について…	28
農工通信発行について……………	28
慶弔……………	28
○ 事務局だより ……	28
○ 編集後記 ……	28



あ い さ つ

学長に就任して

東京農工大学学長 小畑 秀文

去る5月1日に国立大学法人東京農工大学の第11代学長に就任いたしました。私が本学に着任したのが1975年5月ですから、もう30年になります。永いといえば永い年月ですが、いま省みると大変短い期間のように思えるから不思議です。この間、本学は学科数が増え、博士課程が設立され、新しい大学院ができるなど、順調に発展してまいりました。その中に身を置き、これまで多くの学生と楽しみつつ共に学び、自由に研究できたことは大変幸せなことでした。歴代の学長を中心とした執行部の努力のお陰と、今更ながら感謝しているところです。その学長に自分になることなど思いもよらないことでした。学長の責任の重大さについては十二分に自覚しているつもりです。その自覚の上にたつて、学内構成員の力を結集し、同窓生の皆さんのご支援を仰ぎながら大学の発展のために微力を尽したいと思っております。

ご承知のように、昨年4月1日をもって全国立大学が法人化されました。本学の正式名称は始めにも書きましたように「国立大学法人東京農工大学」となりました。大学の長い歴史の中で、法人化は激変に相当する大きな節目であると思います。以下では、この大きな変化と本学の対応、最近の本学の状況をお伝えし、将来の展望をお示しして就任の挨拶としたいと思います。

これまでの国立大学は文部科学省の規制が厳しく、独自性は出しにくい状況に置かれていました。一線横並びの状態であったといえます。逆にいうと、よほどのことが無い限り、色々な意味で安定していた、といえます。法人化はこの状況を一変させました。各大学にはこれまでと比べて大幅な自由度が与えられました。その代わり、大学における教育、研究、社会貢献、国際交流などの活動を外部機関によって厳しく評価し、その結果に応じて大学予算も増減させる、という形に変わったのです。大学の自助努力を最大限に引き出し、従来以上に活性化を促す狙いがあります。従来の護送船団方式から完全に競争社会に変わったわけです。この状況は本学にとっては大きなチャンスだと思います。伝統的に固定化された“序列”を覆し、大きく発展できる余地を与えていると解釈すべきでしょう。もちろん、運営に失敗すれば衰退(?)の道を迎えることとなりますので、そのようなことにならないように学内の叡智を結集して運営に当たる必要があります。

本学は規模的には小さな大学です。しかし、農学と工学を二本柱とした本学は、20世紀の科学技術が残した負の遺産を解消し、人類の継続的発展をはかる循環型社会の構築のための科学技術の発展に大いに寄与できると思われまふ。大学全入の時代を想定したとき、本学がこれからも社会に認められ、存在感のある大学とし

て活動を続けるには、教育、研究、社会貢献、国際交流などでより評価され、個性輝く大学に成長することが必要です。東京農工大学はその実績と実力を認識し、循環型社会の再構築にその責任を果していくことこそ本学の使命と考え、使命志向型教育研究—美しい地球持続のための全学的努力として—(Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth, 略してMORE SENSE)を本学の基本理念としています。MORE SENSEという基本理念に沿った農学と工学、およびその融合領域の教育と研究を通して、人類の持続的発展に寄与することが東京農工大学の使命であり、他大学との違いを表す個性としています。この基本理念を念頭に、大学の発展に必要な諸課題に継続的に取り組むことにより、東京農工大学の一流Brand化の実現に向かいたいと考えております。学長の舵取りはその意味で重大です。私は法人化に伴う変化がビッグチャンスとなり、本学のさらなる発展のきっかけとなるように努力したいと思っております。

次に同窓会の皆様にお伝えすべき大きな変化は専門職大学院が今春発足したことです。それは大学院技術経営研究科で、小金井キャンパスが本拠地です。技術経営学(MOT:Management Of Technology)と技術リスク学を統合したユニークなもので、実践的教育によりリスクに配慮しつつ企業管理・経営や施策立案ができる人材を養成することを狙いとしましたものです。社会人も積極的に受け入れることを念頭に、勤務を終えてから受講できるように午後から夜間にかけて講義が行われること、都心キャンパスとしてJR田町駅から一分の距離にある田町教室も用意され、小金井あるいは田町で行われる授業が他方でも受講できるように、遠隔授業システムも導入されており、本学の新しい顔になると期待されております。第一回生の授業に対する評判はすこぶる良好のようです。同窓生の皆さんの中にも関心を示す方がおいでと思います。再び母校に戻って学んでみませんか?

時代は動いております。大学も急速に変わりつつあります。これまで大学と同窓会との結びつきはそれほどタイトではありませんでした。これからの時代は卒業したあとも、再び戻って勉強し直したいと思える大学、わが子を出身校である東京農工大学に入学させたいと思える大学に変えていくことが求められております。卒業生の皆さんには、本学への関心を従来以上に持っていただき、本学への種々のサポートをお願いしたいと思います。それに応えるべく、最大限の努力を傾けたいと思います。同窓生の皆様には、是非力強いご支援をお願い致します。

これからの農工大、これからの教育

理事・副学長(教育担当) 佐藤 勝 昭

私が、昭和59年に本学に着任して21年が経過しました。その間の本学の発展はめざましいものがあり、その当時と比べると隔世の感があります。本学は、常にその時々、社会的ニーズを積極的に取り入れながら、新たなチャレンジをしてきました。生涯教育(社会人受け入れ)、国際化(留学生センター設置)、大学院強化(博士課程の設置)、大学設置基準の大綱化(一般教育部の廃止と、生物システム応用科学研究科の設置)、産官学連携(産官学連携知財センター発足)、21世紀COEの獲得などです。そして、昨年4月には国立大学法人化と同時に、長年の念願であった大学院部局化を成し遂げ、大学院基軸大学になりました。本年からは、専門職大学院技術経営研究科も発足しました。

こう見ると順風満帆に見えるのですが、急速な発展の陰でのいくつか大切なものを後回しにしてきたような気がします。これからは、原点に帰り学生の視点に立って、研究だけでなく教育にも軸足を置いた大学を築いていく必要があるでしょう。このたび小畑新学長から副学長就任を拝命し身の引き締まる思いを感じております。個性輝く生き生きとした教育の実現のために微力を尽くしたいと存じます。温かいご支援をお願いいたします。

就任ご挨拶

理事・副学長(広報・国際担当) 小野 隆 彦

このたび、小畑学長からのご指名を受け、学外から起用の理事・副学長に着任いたしました小野隆彦と申します。皆様方には初めてご挨拶申し上げますが、東京農工大では集中講義の形で平成2年より工学部の非常勤講師を務めており、毎回の授業に際し学生諸君の真摯で質実剛健な態度には感心致しておりました。広報・国際担当の理事・副学長を拝命して重責に身の引き締まる思いを感じると共に、このようなすばらしい学生・卒業生を輩出する大学で勤務することの喜びを感じております。

さて、皆様ご案内の通り、東京農工大学が国立大学法人化を果たしてから1年1ヶ月が経過致しました。農工大においてはMORE SENSE(使命感志向型教育研究—美しい地球持続のための全学的努力として—)を基本理念におき、農学と工学を並び持つ大学としての個性を発揮しながら社会的な使命を果たすべく全学的な努力を傾けています。そのなかで生み出された多くの優れた研究成果や教育成果について、引き続き情報発信を活発化させていきたいと考えております。また、国際貢献についてもさらなる努力を重ね、今まで以上に大学経営の個性化を図りたいと存じます。皆様方の温かいご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

理事・副学長に就任して

理事・副学長(学術・研究担当) 笹尾 彰

新緑の美しい候となり、府中キャンパスの緑も鮮やかなこの頃です。

平成13年9月に農学部部長就任に際して、農工通信を通じて同窓生の皆さんに挨拶をさせて頂きました。この度、3月31日付けで農学部部長の職を辞し、5月1日から小畑新学長の元、学術・研究担当副学長・理事の重責を担うことになりました。あらためて就任と退任の挨拶をさせていただきます。

国立大学法人になって1年が過ぎました。法人化による構造改革方針として出されていた「国立大学に民間的発想の経営手法の導入」、「大学に第三者評価による競争原理の導入」は、当大学も例外ではなく、法人化前の大学と大きな変化を見せています。運営費交付金も1%前後の効率化係数がかかり、年々減少していく仕組みに対応していかなければなりません。このような状況の中で役員に課せられた任務の大きさを痛感すると同時に、農工大学の益々の発展に微力を尽くす覚悟です。

同窓会の皆様のご協力とご支援をお願いするとともに、皆様の益々のご健康、ご活躍をお祈りいたします。

理事就任にあたって

理事・副学長(総務担当) 山本 順 二

法人化2年目を迎え、小畑学長のもとで、再び理事を拝命することになりました。

各国立大学は、厳しい競争環境の下で知恵を絞り、独自性のある改革を打ち出していますが、本学では、16年度に大学院重点化を、17年度に専門職大学院「技術経営研究科」を開設し、大学院の整備・充実を図ったところです。

しかしながら、国の厳しい財政状況を背景に大学の予算は毎年「効率化係数」が掛かり、大学運営はコスト意識を持って教育研究の活性化と効率化を工夫して行かなければ競争に打勝つことが出来ません。このため、経費の抑制、人事システムの改善、外部資金等の確保など今後取組まなければならない多くの課題がありますが、小畑新学長を支え、東京農工大学が個性的な魅力ある大学として発展するように、引き続き努力を重ねて行きたいと存じます。

また、今後の大学像として、同窓会の皆様方をはじめ、社会人の方々が必要に応じて再び大学で学習を行い、その成果を持ってさらに社会で活躍出来るような「往復型社会」に対応可能な教育機関であることが求められています。本学としても、同窓会の皆様との関係をより一層密にし、高等教育機関としての社会的使命を果たして行きたいと存じます。

同窓会の皆様方の温かいご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

平成16年度東京農工大学卒業式、修了式祝辞

同窓会副会長 高井英雄(織工S31)

皆さん、本日ここに、輝かしい歴史と伝統を有する東京農工大学を卒業あるいは修了されるに当たり、同窓会を代表して心からお祝いを申し上げますとともに、4万人を超えるわが同窓会の会員としてお迎えできることを、大変喜びとするものであります。ここに皆さんの門出に当たり、二つの事を申し上げ、「はなむけ」にしたいと思います。

まず、第一に申し上げたい事はこれから皆さんが経験するであろう仕事の場はいわば「未知との遭遇」であるという事です。皆さんが高等学校までに学んだ勉強は、必ず答えがあり、その答えにたどり着く道筋を学ぶことでした。数学の方程式も物理の法則も然りであります。これに対し大学では、答えも解法も未知の課題を研究することを学ばれたと思います。これから皆さんは、研究や生産の場で、日々、答えのわからない新たな課題に遭遇することになるでめししょう。そして、この未知の課題を解決し、科学技術を進歩させる事こそが、皆さんに期待されていることなのであります。

第二に申し上げたいことは、この課題そのものが見えないこともあるということでありめす。順調に行っ

ていると思われた事業が、ある日突如として、陳腐化し駆逐されるということがありめす。研究者、技術者が、内外の特許や科学技術情報に鈍感であったために、緊急な課題が見えていなかったからでありめす。最近のインド洋大津波の時、人々は沖合いの波を見て、当初は普通の景色としか思えなかったのです。物事を、景色と見るか、知らせている物と見るかは、それを見る人の問題意識に掛かっておりめす。ノーベル化学賞を受賞された白川博士が、本学の講演で次のような話をされました。ある研究生が実験の処方を間違えたために、粉末状のものを期待していたのにフィルム状のものが出来てしまった。普通ならミスとしてゴミ箱行きなのだが、なにか引っかかるものがあって、捨てないでおいだ。これが、後に導電性高分子研究の重要なヒントになったという話でありめす。これも白川博士が常に強い問題意識を持っておられたからなのだろうと思ひめす。皆さんも、これからの仕事の場において、常に強い問題意識を持ち続けて頂きたいと思ひめす。

以上二つのことを申し上げ「はなむけ」の言葉といたしめす。21世紀を担う皆さんのご活躍を心から祈念いたします。ありがとうございました。

平成17年度入学式祝辞

同窓会会長 畑中孝晴(農S31)

入学おめでとうござひめす。ご家族や関係の方々もお喜びのことと存じめす。

今年はいんしゅたいん没後50年、ワトソン、クリックのDNA二重螺旋発見からも50年余、月に人が行けるようになり、遺伝子組換え作物も全世界で8千万ヘクタール栽培されるようになりました。20世紀は物理学の時代、21世紀は生物学の時代といわれておりめす。人口は今世紀末に100億人近くになると予想されており、狭くなった地球で、循環型の持続的社會をつくるには、生物のもつ多様な機能を活用して、食料、環境、エネルギーなどの地球的課題を解決していかなければなりません。このためには、それぞれの領域を深く追求するとともに他の学問分野と連携していく必要があります。科学技術の水準が高まってくればくるほど、深さと幅が求められます。本学は幸ひ生物系と工学系の学部があり、かつ両者の融合を図ろうとする部門もありめす。東京農工大学はたった2学部ですが、外部から見ると大変存在感のある大学です。皆さんも

マンモス大学でないメリットを生かして、自分の専攻だけでなく、いろいろなところに首を突っ込んで、広く学んでほしいと思ひめす。

最近のケータイやライブドアにみられるように、我々の時代と異なり技術も社會も猛烈なスピードで変わっています。大学で学んだ知識は早晩陳腐化してしまひめす。こうした変化に対応していくためには、大学では、知識だけでなくもの見方、考え方の基本と自分の考えを的確に伝える力を身に付けてほしいのです。真の友人に出会えるのも大学時代です。

今日は同窓会を代表してご挨拶させて頂ひめす。現在同窓生は4万人弱、それぞれの分野で活躍しておりめす。入学式で申し上げますのは早いのですが、心身ともに柔軟な大学時代に様々なものを吸収し、優秀な同窓生として入会される日を楽しみにしておりめす。21世紀は確実に皆さんの時代です。志を持ち、元気に楽しく意味のある大学生活を送ってください。本日はおめでとうござひめす。

卒業生の声

■生命工学科卒業 池田 侑市

農工大での4年間は試験や卒論など忙しい時期もありましたが、その一方で、アルバイト等をする時間も充分にあったため、とても充実していたと思います。その結果、大学の内外を問わず多くの人や体験と出会う事ができ、様々な考えや情報を得る事が出来ました。この多くの経験・情報を与えてくれた農工大での大学生活があったため、以前に比べ飛躍的に成長した今の私があるのだと思います。大学生活で得た経験をこれからも大切に、生かしていく事で、今後さらなる成長を目指したいと思います。

■応用分子化学科卒業 和田 梓

大学三年の冬に研究室に配属されるまで、なんとなく大学に通い、与えられたものだけを学習するという受身の姿勢でした。しかし、研究室に配属され、一人々々に研究テーマが与えられてから、受身ではなく積極的に物事に取り組むようになりました。また、この一年間で、自分で物事を深く考え、実行し、結果を出すという研究活動に必須とされる一連のプロセスを学びました。大学での4年間の生活を振り返ると、4年生の時が最も充実し、得たものも大きかったと感じています。今後、私は本学大学院に進学します。進学してもこれ迄学んできたことを研究に生かしていきたいと思っています。

■有機材料化学科卒業 須賀 陽介

東京農工大学を卒業するにあたり4年間で強く感じたことは講義や実験等が充実していること、専門知識を学ぶためのすばらしい環境が整っていることが挙げられます。講義の質問には先生方に親切に対応していただき、学生実験では先生や大学院生のわかりやすい指導で非常に充実した時間を過ごすことができました。このような“熱心”である大学を卒業することを誇りに思うとともに、偉大な諸先輩方を見習って同窓生新会員として農工大で学んだことを今後活かしたいと思っています。

■化学システム工学科卒業 今村 光宏

4年間の大学生活が終わりこれから大学院での勉強が始まります。大半の学生が進学するため、卒業してからも会う事のできる人が多いのですが、他大学への進学、就職をする人たちもいて会う事が難しくなる人もいます。大学院への進学も社会に出るのを先延ばししているだけなのかもしれないという思いも強く、先に社会へ出る友人に取り残されてしまうというような焦燥感を感じています。しかし自分は進学を選んだのだから、大学院でより努力をし、先に社会に出る友人達に負けないう研究に励みたいと思います。

■機械システム工学科卒業 小宮山 誠

卒業するにあたって東京農工大学に入学してから4年間の振り返ると様々な経験や多くのことを学ぶことができたと思います。分野ごとの専門知識やその知識をいかに社会の役に生かして行くかなど、社会に出てからも必要な大切なことを学ぶことができました。そして、4年次には卒業研究などの大変だけどやりがいのある日々を送り、2週間の高等学校の教育実習など、多くの経験を得ることができました。この4年間の経験や知識を基に4月からの新たなステップを踏み出していきたいと思っています。

■物理システム工学科卒業 小村 高弘

二年留年して、ようやく今年卒業できました。来年は農工大の大学院への進学が決まっています。正直なところ、「ほっとした」という気持ちはあるのですが、「うれしい」という気持ちはありません。理由はおそらく、自分がやるべきと感じることをほとんど実行して来なかったためだと思います。ただ形式上卒業できただけ、というのが率直な感想です。しかし同時に、今までの六年間が無駄であったとは全く思っていない。この六年間学んだ様々な事を最大限に生かせるように今後の大学院生活を送って行きたいと思っています。

■電気電子工学科卒業 稲吉 毅

入学当初、大学生活と言うものにあまり期待していませんでした。普通に単位を取って、普通にバイトをして、普通に遊んで、日々を単調に過ごしていくのだろうと思っていました。そんなある日、硬式野球部に入部することになりました。全くの初心者です。きっかけは、偶然の出会いを初めとしたノリと流れでした。想い描きもしなかった、充実した大学生活の始まりでした。色々あります。何が起こるか分かりません。心持ちです。これからもこの農工大での日々の思い出を、大切にしていきたいと思っています。

■情報コミュニケーション工学科卒業 古宮嘉那子

卒業に際し、入学時を思い出します。当時私は、授業についていけるか、友達はあるかといった不安でいっぱいでした。しかし今、先生方や友人達のお陰と自分の努力で、それらを乗り越えた私があります。この四年間で得られた自信は、今後の人生にとって、大きな糧となるでしょう。私の大学院進学仲間には、女性の割合が極端に少ないのですが、私は、社会的に能力を認められにくい女性こそ、大学院に進学して力を付けるべきだと考えています。私たちの勉強は、これで終わったわけではありません。自信を持ち、常に謙虚に学ぶ姿勢を持って、大学院に、ひいては社会に出て行きたいと思っています。

研究紹介

最適化問題ソルバに関する現状について

共生科学技術研究部 品野 勇治

1年ほど前の話になりますが、「トリビアの泉」というテレビ番組の中で東京農工大学が紹介されました。内容は、「広辞苑に載っている言葉でしりとりをすると、最も長いしりとりの最後の言葉は何になるのか」という問題を実際に解いた様子です。「最後の言葉」は本質的ではありませんし、幾つもの解答がありますが、しりとりに使われる言葉の数が最も多いという意味での長さについては、最長のしりとりを求める必要がありました。

バラエティー番組という性質上、解法は紹介されませんでした。何を求めるべきかを説明するために、図1のような構成可能なしりとりを全て列挙する絵がアニメーションで紹介されました。確かに、求めるべき解答は、全てのしりとりを列挙して一番長いしりとりを選べば良いのです。しかし、簡単な計算により、全てのしりとりを列挙することは、仮に世界一計算速度の速い超並列計算機でも現実的には不可能なことがわかります。

この種の問題は、組合せ最適化問題とよばれ、解くことが困難な問題として知られており、解法の枠組みは、古くから開発されています。ただし、一般的には、問題の規模(問題をモデル化した際の変数の数などで測る)が大きくなると現実的な時間内では、やはり解けないことが多いです。面白いことに、この最長しりとりを求める問題の場合は、一般的なPCで数秒の計算で解けました。詳細は、ここでは示せませんが、専門家でない方を対象とした解説を以下URLに掲載してありますので是非ご覧下さい。鍵になるのは、数理計画法です。

URL: <http://al.cs.tuat.ac.jp/~yshinano/shiritori/>

数理計画法において、最も良く研究されてきた問題は、次のような線形計画問題ではないかと思えます。

$$\begin{aligned} \text{最大化} \quad & \sum_{j=1}^n c_j x_j \\ \text{条件} \quad & \sum_{j=1}^n a_{ij} x_j \leq b_i, \quad i=1, \dots, m \\ & x_j \geq 0, \quad j=1, \dots, n \end{aligned}$$

ここで、 c_j , a_{ij} , b_i は定数で、 x_j が変数です。線形計画問題の記述能力は高く、応用分野も広いです。最長しりとり問題の解法でも、線形計画問題を部分問題として解いています。その際の規模は概ね $n=4692$, $m=69$ です。この規模の問題の場合、今ではインターネットで配布されている線形計画問題を解くプログラム(ソルバ)でも、一般的なPC上で最適解を求める時間は、わずか数秒です。

線形計画問題の解法は、内点法とよばれる80年代に登場した解法に喚起されて飛躍的に発展しましたが、計算機そのものの速度向上と混同されがちですが、解法自体の速度向上は計算機の速度向上を上回っています。表1は、ある商用の線形計画問題ソルバの各バージョンにおけるプログラムの速度がどのように向上したのかを示しています。ベンチマーク問題として利用しているのは、概ね $n=177,000$, $m=49,000$ の問題です。注意して頂きたいのは、各バージョンのプログラムを(今のPCより遅い)同じ計算機上で実行することでプログラムの速度向上を計測していることです。

表1 線形計画問題ソルバの速度向上

バージョン	リリース年	計算速度(秒)
1.0	1988	57,840
3.0	1994	4,555
5.0	1996	3,835
6.5	1999	165

近年では、線形計画問題の各変数が整数であるという整数条件の付いた問題でも飛躍的に現実的な時間内で解ける問題の規模を拡大しています。計算機そのものの速度向上を加味すると、PCで解ける最適化問題の規模と計算速度は、過去のスーパーコンピュータを凌ぎますが、この事実はまだあまり正確には認識されていないように思えます。私自身は、企業との共同研究を通して、このような研究成果を実社会へフィードバックしています。

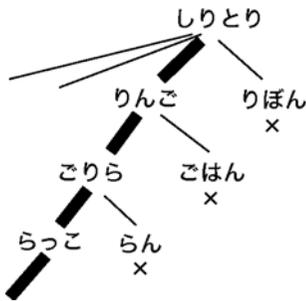


図1 生成可能なしりとりを全て列挙する様子

解説

北シベリア永久凍土におけるマンモス・微生物調査探検プロジェクト

ISTC*(国際科学技術センター)上席技術調整管理官 坂本 現 意 (電気S43)

1. 調査探検プロジェクトの概要

永久凍土から発掘されたマンモス組織によりマンモスクローン再生を研究し、また永久凍土の土壌サンプリングから有効な微生物を採取し、新薬の開発等に役立てる目的で、2002年7月30日(火)ー8月10日(土)に実施された。

探検隊チームは、マンモス担当のマンモス博物館館長 Dr. Petr A. Lazarev 他4名の Yakutsk チーム、微生物担当の Dr. Vladimir E. Repin 他2名の Novosibirsk チーム、本間清岐 岐阜県科学技術振興センター所長他3名の日本チーム及び ISTC の坂本他1名の ISTC チームで構成された。

2002年7月30日の真夜中23:35発のシベリア航空でモスクワ・ドモジエドボ空港を出発した探検隊の日本チームと ISTC チームは、Irkutsk を経由して、Yakutsk チーム及び Novosibirsk と7月31日の真夜中23:30頃に Yakutsk 空港にて合流した。

更に翌8月1日9:00少し前に古いソ連製の小型双発プロペラ機アントノフ24型機に今回のロシア・日本合同の探検隊合計14名が乗り込み出発し、次の Deputatskiy (ここは流刑者の町で、人口の半分は囚人) を経由して、旧ソ連製の軍用中型ヘリコプター・ミコヤン8型機(整備不良のためかしばしば墜落する)に乗り換え、今回のマンモス発掘地 Maksunokha に8月1日17:30に無事到着した。ここはGPSにて確認したところ、北緯71°34'56.9、東経141°37'37.6であり、午前0時を過ぎると太陽が少し沈むが、夕焼けが美しく空は暗くはならない白夜である。またこの辺りは完



*ISTC: 日本、米国、EU等からの拠出金により、ロシア・NIS諸国の大量破壊兵器関連研究者の平和目的の研究プロジェクトを支援するために1994年に設立された国際機関(事務局はモスクワ)。

全な永久凍土地帯であるので、地表から40ー50cm程を掘ると分厚い氷床が現れる。

探検期間中地元のTV放送2局 Deputatskiy TV局及び Ust-Yahskaya TV Studio の取材インタビューがあり、本プロジェクトの重要性、ISTCの活動を説明した。

2. キャンプ設営

起伏のある平原の丘の上にキャンプ設営したが、直径15cm程の密生した草の塊の上にエアーマットを敷き、その上にシュラフに包まれば、なんとか寝れる状態になった。ヤクート人を含めたロシア人達は、テントの設営は勿論、14名が座って食事が出来るテーブル、椅子を2時間程で平らな板材を鋸、斧だけで地面への固定式のものを作り上げてしまった。この他にも調理用テーブル、残飯用ゴミ捨て場、材木からの燃料用薪、また薪を燃やしてヤカン、バケツで湯を沸かす釜戸を太くて長い鉄の棒のみで斜面を上手く利用して作った。

3. 蚊の大群の猛攻撃

多くのロシア人、日本人から聞いて覚悟はしていたが、蚊の大群の猛攻撃がこれほどとは想像出来なく、本当に驚いてしまった。これほどの蚊の大群は目を開けていると目、鼻にまで入って来るほどで、頭及び顔全体を覆うネットキャップがないと生活できない程で、食事中もこのネットキャップをしながらの食事で、スープ、食べ物には、蚊が瞬く間に真っ黒になる程で、顎の下のネットを少しこじ開けて、その隙間から、口に素早く放り込むことになった。

もっと恐ろしいのは刺される事で、これの防護策を工夫した。気温は異常気象の影響のためか、かなり高温であったが、軍手に長袖のシャツ、マフラー、それに厚手のコートを着込んでも刺されてしまった。更に防ぐ事が出来ないのは、大小便の無防備状態時で、出来る限り風の強い時を選んでしていたが、大分刺されてしまった。

4. 炊事及び食事

女性の Elena さんが担当してくれた炊事では、朝食は簡単で、トウモロコシの様な粉末にお湯に入れてバターで味付けした固めの重湯に似たものとパン及びコーヒーかお茶であった。昼食、夕食は、香辛料の効いたスープ、サラダとメインの肉か魚が基本で、Elena さんの味付けは日本人にも

好評で、全く問題がなかった。肉及び魚は、驚いたことに殆どがハンティングとフィッシングの現地調達であった。

生水用の水は運んできたが、沸かして飲むお茶、コーヒー、スープ等の料理用の水全ては、丘の約150m下を流れる Maksunuokha 川の水(それ程澄んではない)からバケツで運んできて用意した。

夕食時には、プロジェクトの成功を願って、度々ウォッカで乾杯したことは言うまでもない。ウォッカだけではなく、ワイン、ケスキル(ヤクーツク特産のアルコール度の強い「40%」菓草酒)でも乾杯することになった。また、アルコールが入れば、当然歌、ダンス等が飛び出す事になる。Elenaさんは、Yakutsukでも有名な歌手とのことで、彼女の声はシベリアの平原に朗々と響き渡った。

5. ハンティング・フィッシング

優秀なハンターであるヤクート人の Misha (Michel)は、まだ若い動物学専攻の研究者であるが、22:00までの発掘作業を終えた後、ライフル銃を持ってハンティングに出かけ、仕留めたエルク(へら鹿)はその場で解体し、綺麗に仕分けて全てを大きな袋に入れ担いでキャンプ地に午前3時頃戻って来て、永久凍土の天然冷蔵庫に保存しておいた。

このエルクのレバー、心臓等の内臓は玉ねぎと共に炒めて、塩、胡椒で味付けて食べ、肉はジャガイモと一緒に煮込んだり、ひき肉にしてハンバーグの様にして食した(ひき肉器を持参!!)。

フィッシングは、8月2日の夕食後に歩いて15分程のところにある Nikita 湖に魚をとるための網を仕掛けに行った。3人乗り位のゴムボートで沖まで網を仕掛けに行き、翌日朝と昼の2回掛かった魚を取りに行った。朝、昼それぞれ掛かる魚の種類が違い、赤身肉と白身肉の違いがあり、トラウトの一種と思われる。これらの魚は、油で揚げて醤油をかけて食すると大変美味であった。

6. マンモスの発掘(8月2日～8月6日)

8月2日朝からマンモス発掘作業を開始。この発掘作業は、マンモス博物館館長 Dr.Lazarev 他ヤクート人男性4名が担当した。

最初の表層土の部分は手製のシャベルで土を掘り起こし、永久凍土が出てくると、斧、ツルハン及びウォータージェットガンで氷を砕き、溶かす、全くの人力で行なうので作業が過酷で、効率的でない。マンモスの骨を含めた組織が出てくると、Maksunuokha 川から発電機・ポンプで汲み上げた水のウォータージェットガンで慎重に組織周辺の氷

を溶かしながら掘り出す作業を根気強く行なった。また、スキン、ヘアー、肉が付着している骨が出てくると、それらを壊さないようにビニールシートでカバー・保護して慎重に掘り出した。

これらの発掘作業により上腕骨(約50cm)、椎間板、腰骨の一部等が最初に発掘され、その後巨大な後肢大腿骨(約1.3m)を掘り出した。更に、巨大な骨盤、後肢大腿骨(約1.3m)を発掘し、マンモスの組織、土、氷が溶けた水及び川からの水がミックスして、鼻を突く腐敗臭がひどい。また、これに蚊の大群が押し寄せて、ヤクート人の作業は難航した。その後順次、椎骨の一部、ヘアー及び肢の茶褐色の肉片(大きき約2cm×13cm、厚さ約1cm)を発掘。この肉は柔らかいが弾力は無い。冷凍庫がまだ作動していないので、地中約40cmを掘り、氷層を更に約15cmドリルで掘削し、この肉をビニール袋でパッキングした後、水、塩でつけた後、草土で埋め戻して保存。

更にマンモスの前肢の先(肢の裏部分)40-50cmが見つかり、周囲の氷を削り取り、裏返すと後肢の先が交差した大きな固まり(長さ約1m、直径約50cm)が発掘された。これらの前後肢には、肉、スキン、ヘアー等が付着しており、非常に貴重な発掘組織であり、今回のマンモス探検・発掘での最大の成果である。

前後肢の固まりに厚く付着した氷を丁寧にツルハン、斧で削り取り、冷凍庫まで運べる状態に仕上げ、この一部の骨を鋸でサンプルとして切り取ると、その臭いはフレッシュな匂いがした。この後この前後肢の固まりを新しいビニールシートでカバーした後、表層土の塊を被せ、更にエルクの毛皮と表層土の固まりで二重に被せた。

この前後肢の固まりを、運ぶための台座を即席で作成し、殆ど全員で持ち上げ移送して、冷凍庫に保存した。これにて、マンモス発掘作業は全て終了した。

7. 微生物土壌のサンプリング(8月5日～8月7日)

8月5日9:30から微生物のサンプリングを開始。Nikita 湖近くの水辺、平原等の土壌、コケ、草根に付着している土壌を Dr.Repin, Dr.Pugachev, 微生物化学研究所の土井研究員、坂本の4名で合計11箇所をサンプリング。GPSによる位置測定データは、北緯(N)71° 34' 51.0~54.1, 東経(E)141° 38' 14.6~23.7等であった。日本に持ち帰ったサンプリング土壌から非常に強力な活性を持つ石油分解菌が発見されたとの報告があり、本件はその後の研究成果に期待が持てる。

(現在 株・ディック・アルファ参事, 東北大学客員教授)

寄稿

武蔵野で演出する楽農社会

ささぎたつお
笹崎龍雄 昭和15年、東京高等農林学校獣医学科卒業。今、武蔵野の一角で食と生活の理想郷「ライフピア」の創造を目指して事業を展開する注目の企業家、「株式会社埼玉種畜牧場」の会長である。

一帰還兵の想いと豚との出会い

笹崎龍雄は大正5年に長野県南佐久郡畑八村に生をうけた。長じて東京高等農林学校に入学して獣医学を修めた。卒業後、陸軍獣医部将校としてアジア各地を転戦し、「マレーの虎」と称された名将、山下奉文の下で終戦を迎えた。その時、敗戦の恥辱に打ちひしがれていた笹崎は共に深く自決することを山下に進言したという。しかし山下はそんな笹崎に涙を流しつつ「帰国して祖国の再建に尽力されよ」と諭した。

「その時の光景は今までもはっきり覚えている」と笹崎は言う。これが笹崎の原点になった。昭和21年、傷だらけの身体を引きずって帰還した笹崎は、戦いに敗れ、ひもじさの中で苦悶する国民を目の当たりにして、自分は農業を通して日本の再建に尽くすべし、と心得た。山下奉文と交わした言葉から「自分にはそんな使命が託されているのではないか」。笹崎はそう自覚したと述懐する。

その年、笹崎は埼玉県川越市の片隅で種畜産業を興した。折しも時の農林省の国家政策の柱に「有畜農業」があった。しかしその核は酪農と養鶏であった。そんな中で笹崎は豚に注目した。「しかし」と笹崎は苦笑混じりに言う。「豚は当時トンマだの、トンチキだのと馬鹿にされてねえ。極めつけは豚箱ツグバコですよ」。

笹崎には豚に対する特別な想いがあった。笹崎はそんな小学生の頃、父の言いつけで豚の世話をしていたのだが、その親身の世話に子豚がなつき、笹崎少年のあとを追って小学校にまでついてくるようになったのである。そんな子豚が笹崎少年にはかわいくてたまらなかった。もうひとつは、当時味わった喩えようのない美味しいトンカツの味である。

力を込めて笹崎は言う。「家畜という字をよく見て下さい。家畜の『家』は屋根の下に『家』、『畜』は玄関の『玄』の下に田んぼの『田』でしょ。豚は農家の入り口に住まうほどに、非常に大切な家畜なんですよ」。ここに笹崎と豚の長い付き合いが始

まった。

6坪の直売店から

昭和25年、笹崎は種畜牧場を現在地の埼玉県日高市に移し、株式会社「埼玉種畜



牧場」と名称変更し、さらに昭和45年、「サイボクハム」として新たなスタートを切った。当時、日本の豚種の主流はイギリス産のヨークシャー種とパークシャー種であった。1961年、笹崎はこれに代えて大型のランドレース種を日本で初めて輸入し、美味しい豚肉の改良に着手した。その後もいい豚を求めて世界中を見て回った。飼養技術の改良も怠りなく追求した。「美味しい豚肉はDNA(遺伝子)が60%、飼料が30%、飼養環境が10%」。長年の経験から笹崎はそう確信している。

こうして昭和50年、サイボクハムの努力の結晶たる自信作、「サイボク・ゴールデンポーク」という銘柄が誕生した。しかし市場の反応は期待に反し、評価は必ずしも芳しくなかった。官庁サイドも冷淡であった。それどころか笹崎がこれと見込んで輸入したランドレースを「ランドセルとかいう豚は……」というほどの認識であった。笹崎は厚い官庁の壁に少なからぬ疲労感を覚えた。「しからば」と笹崎は考えた。「研究と努力の作品を一般の市民に評価してもらおう」。

こうして「サイボク・ゴールデンポーク」は売り出された。初めは6坪の粗末な掘っ建て小屋であった。そんな笹崎に、最初のお客の声が飛び込んできた。「こんなに美味しいお肉は初めて」。そう言ってそのお客は4人のお友達を連れて再び訪れてきた。面白いことに、この顧客の声は人から人へと広がり始めた。「4人が次の日には8人、そしてその翌日は16人に、さらにその翌日は……」。笹崎は確かな手応えを感じていた。

笹崎にはもうひとつの手応えがあった。それは生産者たる農民が自らの製品の価格の決定に全く関わることができない、という農民にとって理不尽な流通の仕組み。そこに風穴を開けたことである。「補助金依存でなく、産業として自立できる農業経営を……」と言うとき、笹崎は一介の企業家を超えて日本農業へ想いを馳せる。

ミートピアからアグリトピアへ

6坪の直売店は3ヶ月後には約5倍の27坪になった。さらに1年後には2棟に、続いて3棟に拡大された。「サイボクハム」はその後も嬉しい繁忙の時期を迎える。「宣伝もなしにですよ」と笹崎が言うように、「サイボクハム」には評判を聞きつけた人々が日ごと、年ごとに押し寄せるようになったのだ。

この間も「サイボクハム」は美味しく安全な食肉を求めて試行錯誤を続けた。その努力は国際調理食品競技会での大量メダル受賞として結実した。「サイボクハム」のハムやソーセージ、食肉調味料などの製品は、昨年だけでも金メダル30個を含む41個ものメダルを獲得した。こうして笹崎自らが称する「ミートピア」という食肉の楽園が誕生した。

その後も笹崎は顧客の声に耳を傾け続けた。「お惣菜やお野菜もあればいいのにね」。こんな顧客の声におされて「サイボクハム」には野菜や果物、パン、米などのさまざまな食品が並ぶようになった。「サイボクハム」は食肉中心から農産物総合販売店へと脱皮して行ったのだ。生産・加工・直売までの一次～三次産業の食の一貫産業。笹崎はこれを四次産業と称し、その哲学を具現した食の文化を「アグリトピア」と称している。「サイボクハム」は楽農の郷へと生まれ変わった。

目指すは生活革命

こんな笹崎にもうひとつの転機が訪れた。「サイボクハム」にも車社会と都市化の波が押し寄せ、慈育してきた原種豚への悪影響が心配されるようになったのである。そこで笹崎は清涼な環境での養豚を決意し、平成13年に山梨県早川町に「南アルプス牧場」を建設し、そこに500頭の前々種豚を移した。

ところがこれが思いもよらぬ幸運を呼び込んだ。養豚場跡地をボーリングしたところ、湯温40.6度の良質の湯が毎分1トンもの勢いで噴き出したの

だ。笹崎はこれを「トン様からの贈り物」と感謝し、昨年6月そこに「まきばの湯」という瀟洒な温泉館を建設した。「まきばの湯」は現在憩いと癒しの場として大勢の市民に喜ばれている。かくして「サイボクハム」は年間380余万人もの市民が押し寄せる一大アメニティ楽園へと大きく発展した。

しかし笹崎は儲かればそれでいい、と考えるだけの企業家ではない。笹崎にはかねてより心に沈澱する憂慮がある。日本農業の停滞、極端に低い食糧自給率。子供の食環境の悪化、教育の衰退、家庭崩壊・・・などである。これらについて笹崎は折りにふれて指摘し、その改善に提言もしてきた。そんな日本の現状を憂慮しつつ、笹崎はここサイボクハムの地に、「日本人の理想的生活環境を創造し、それを発信し続けたい」と言う。こう言うときの笹崎は、昨年米寿を迎えたとは思えない若さど気迫にあふれた青年そのものである。

会見後記にかえて

笹崎には実はもうひとつ、教育者としての顔がある。笹崎はこれまでに多くの著書を著してきたが、その中でも養豚のバイブルと称される名著「養豚大成」(養賢堂)は、日本ばかりでなく中国でも北京農業大学の教科書として長く愛用されている。また国内外の養豚後継者を研修生として受け入れ、3,000余名もの養豚経営者を養成してきた。国内外の講演や雑誌のインタビュー、「埼玉県日高市日中友好協会」会長や「埼玉県同協会」副会長など、埼玉県や出身の長野県の名士としても多忙を極めていた。今後ますますのご活躍とご健勝を願いつつ、辞した。

(文中敬称略。文小原嘉明，昭和39農卒)

株式会社埼玉種畜牧場(サイボクハム)：

〒350-1221 埼玉県日高市下大谷沢546

TEL 042-989-2221 Fax 042-989-7933



東京農工大学同窓会第42回通常総会開催さる

日 時：平成17年5月28日(土)13：30～15：15

場 所：東京農工大学工学部11号館5階会議室

出席者：理事及び代議員 計183名(うち委任状81名)

第42回通常総会は、5月28日母校工学部キャンパスで開催された。

総会に先だって、理事会が開催され、会長、副会長の推挙及び総会の議案が承認された。

生原副理事長から、出席者が定足数を越え、会議が成立した旨報告があり、通常総会に入った。会議に先立ち、林田内閣府副大臣の祝電が披露された。畑中会長から、「今年度は、事業報告、事業計画などの通常の活動に加え、個人情報保護に関する規則の制定を行いたい。今回は副会長、支部長の懇談会を行い意見交換した。法人化に伴い、大学に経営協議会ができ、同窓生より農工から2人が委員に選任されている」という挨拶があった。

続いて、来賓の佐藤副学長、笹尾副学長、山本副学長、國見連合農学研究科長から、「教育改革に向けての施策、産官学連携、法人化後2年目に入ったこと、専門職大学院、同窓会との交流、連合農学研究科の現況」の話があり、同窓会への多大な支援に対する謝意と今後の倍旧の協力の要請があった。なお、新任の小畑学長は中国への出張のため欠席された。

引き続き、畑中会長を議長に選出し、議事録署名名人に平澤正、滝山博志理事を選任し、議事に入った。

議事

1. 平成16年度事業報告、決算報告及び監査報告

高橋総務部長より、資料に基づき平成16年度の事業12項目について報告があり、また堀経理部長より、平成16年度決算報告〔別記1〕が行われた。さらに伏谷監事から、報告書・帳簿・伝票等の精査を実施した結果何れも適性に処理されており、また事業・業務報告も適性である旨報告された。以上平成16年度事業報告、決算報告、監査報告について何れも異議なく了承された。

2. 平成17年度事業計画、予算案提案

平成17年度事業計画案〔別記2〕に関し、高橋総務部長、生原副理事長(分収造林担当)、額額名簿担当部長、桑原広報部長より事業項目全般、分収造林契約の15年延長、今年度発行の名簿の現況、農工通信の平成18年以降の年1回発行の検討を進めることなどを含めた11項目の提案がそれぞれあり、また堀経理部長より平成17年度予算案〔別記3〕について提案説明が行われ、何れも提案通り承認された。

3. 東京農工大学同窓会個人情報保護に関する規則の制定

高橋総務部長より、東京農工大学同窓会個人情報保

護に関する規則案について提案説明があり、一部文言の修正をすることで、承認された。

4. 次期会長・副会長の選任

松岡理事長より、平成17・18年度の会長、副会長(18名)の候補者案〔別記4〕が提案され、原案通り承認された。

総会終了後、工学部総合会館において、懇親会が開催された。

〔別記1〕平成16年度決算報告

(平成16年4月1日～17年3月31日)

1. 基本金決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 予 算 額	(B) 決 算 額	(A)-(B)	備 考
前年度繰越金	306,196,520	306,196,520	0	
終身会費	2,300,000	3,240,000	-940,000	延105名 (含、分納)
賛助会費	21,000,000	18,360,000	2,640,000	延612名
合 計	329,496,520	327,796,520	1,700,000	

(2) 支出 (単位：円)

特別会計繰出	10,000,000	10,000,000	0	会員名簿発行費 同窓会室什器
一般会計繰出	9,830,000	9,830,000	0	終身/賛助会費 の10%+750万円
特別繰出分	6,008,645	6,008,645	0	基本金より特別 繰出 6,000千円
合 計	25,838,645	25,838,645	0	

(3) 残高 (単位：円)

収入-支出	303,657,875	301,957,875	1,700,000	
-------	-------------	-------------	-----------	--

2. 一般会計決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 予 算 額	(B) 決 算 額	(A)-(B)	備 考
前年度繰越金	2,511,355	2,511,355	0	
入 会 金	4,200,000	4,215,000	-15,000	843名
年 会 費	2,000,000	1,959,600	40,400	延1,304名
10年前納会費	870,000	1,080,000	-210,000	72名
利 子	100,000	88,766	11,234	
基本金より繰入	15,838,645	15,838,645	0	
そ の 他	0	80,829	-80,829	
合 計	25,520,000	25,774,195	-254,195	

(2) 支出 (単位：円)

款 項 目	(A) 予 算 額	(B) 決 算 額	(A)-(B) 増 減	備 考
事 業 費	13,260,000	12,664,032	595,968	
内				
会員名簿発行準備費	1,350,000	1,323,015	26,985	名簿データメンテ
会員名簿作成費	0	0	0	
会報発行費	8,250,000	8,946,446	-696,446	7月, 12月
新入正会員歓迎費	810,000	684,600	125,400	卒業, 修了証書カバー
母校援助費	1,700,000	682,000	1,018,000	学会発表, 課外活動
分収林管理費	0	0	0	
資料整備費	300,000	196,171	103,829	パンフレット作成等
活 動 費	850,000	831,800	18,200	
会 議 費	390,000	402,570	-12,570	通常総会懇親会他
事 務 費	9,600,000	8,955,414	644,586	
手 当	2,200,000	2,208,000	-8,000	
雑 給	2,800,000	2,564,457	235,543	
備 品 費	250,000	60,494	189,506	パソコン購入等
消 耗 品 費	800,000	876,530	-76,530	
通 信 費	650,000	558,002	91,998	
旅 費	2,250,000	2,327,100	-77,100	総会支部代議員, 支部総会
事務用品印刷費	250,000	164,106	85,894	封筒印刷等
慶 弔 費	60,000	30,910	29,090	
借室・光熱水費	200,000	0	200,000	同窓会室
雑 費	140,000	165,815	-25,815	
支部・部会還元金	940,000	815,250	124,750	
職員厚生積立金	100,000	100,000	0	
そ の 他	30,000	65,000	-35,000	
予 備 費	1,200,000	23,803	1,176,197	国債購入手数料
支 出 合 計	25,520,000	23,026,069	2,493,931	
次 期 繰 越 額	0	2,748,126	-2,748,126	

3. 特別会計決算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C) 合 計
前年度繰越金	15,272,860	608,341	0	15,881,201
繰 入 金	7,000,000	100,000	3,000,000	10,100,000
利 息	3,248	65	0	3,313
合 計	22,276,108	708,406	3,000,000	25,984,514

(2) 支出 (単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C) 合 計
支出合計	279,000	0	3,000,000	3,279,000

(3) 特別会計残高 (単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C)
収入-支出	21,997,108	708,406	0	22,705,514

[別記2]平成17年度事業計画

1 第42回通常総会・理事会の開催

平成17年5月28日(土), 本学小金井キャンパスにて第42回通常総会・理事会を開催する。議事内容は、1)平成16年度事業報告, 決算報告, 2)平成17年度事業計画案, 予算案, 3)平成17・18年度会長, 副会長の選任, 4)個人情報保護に関する規則の制定, 5)分収造林契約延長, 農工通信の発行, 平成17年版名簿の発行, 6)その他を予定する。

2 同窓会組織強化, 活性化および同窓会財務体質健全化

常務理事会の部制の徹底により業務執行の効率を進め, 部会・支部・職域組織活動の活性化を図るために理事の積極的派遣を行い, また, 副会長・支部長との懇談会開催を実施し, 支部・部会還元金について検討する。収入増を図るために賛助会費増の推進や会費未納者への会費納入の督促, 終身会費への切り替えを推進する。また, ペイオフ完全実施に対応するべく, 定期預金を順次国債に切り替えていく。

3 東京農工大学同窓会個人情報の保護に関する規則の制定

同窓会として, 規則・規程等と保護体制を整備し, 総会での承認を得て対応していく。なお, 経過措置として総会までは常務理事会の承認を得て, 4月1日より対応している。

4 農工通信75号, 76号の発行

従来通り, 75号は7月1日および76号は12月1日の発行に努める。次年度以降の農工通信の発行について, 年1回の発行とすることも含めて検討する。

5 平成17年版同窓会会員名簿の発行

平成17年11月発行を目的に制作する。

6 同窓会創立50周年記念事業

創立50周年記念事業の検討を開始する。

7 同窓会活動とそのPR活動の充実

同窓会紹介パンフレットおよびホームページの充実を図り, PR活動に努める。

8 会員動静整理の継続実施

農工通信の未着信会員について追跡調査を行って会員の動静の把握に努める。

9 財団法人東京農工大学後援会への協力

後援会の事務に対する実質的支援を従来通り継続して行う。

10 母校に対する援助, 新入正会員歓迎行事の継続実施

学生の勉学・学生生活に関して学会発表, コンテスト・コンクール等発表・入賞祝い, 優秀卒論副賞等の援助, 学園祭・課外活動の援助, 同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援を継続して実施する。卒業・修了証書カバーの贈呈を継続して行う。

11 会員の慶弔

祝電, 弔電を打電する。

【別記3】平成17年度予算

(平成17年4月1日～18年3月31日)

1. 基本金予算

(1) 収入

(単位：円)

款 項 目	(A)	(B)	(A)-(B)		備 考
	17年度予算額	16年度予算額	増	減	
前年度繰越金	301,957,875	306,196,520	-	4,238,645	
終身会費	2,000,000	2,300,000	-	300,000	延70余名(含、分納)相当分
賛助会費	19,500,000	21,000,000	-	1,500,000	延650名相当分
合 計	323,457,875	329,496,520	-	6,038,645	

(2) 支出

(単位：円)

特別会計繰出	(A)	(B)	(A)-(B)		備 考
	17年度予算額	16年度予算額	増	減	
特別会計繰出	3,100,000	10,000,000	-	6,900,000	会員名簿発行/同窓会室什器、事務機整備
一般会計繰出	9,650,000	9,830,000	-	180,000	終身/賛助会費の10%+750万円
特別繰出	5,391,874	6,008,645	-	616,771	一般会計特別繰出(収入不足分)
合 計	18,141,874	25,838,645	-	7,696,771	

(3) 残高

(単位：円)

収入-支出	(A)	(B)	(A)-(B)
収入-支出	305,316,001	303,657,875	1,658,126

2. 一般会計予算

(1) 収入

(単位：円)

款 項 目	(A)	(B)	(A)-(B)		備 考
	17年度予算額	16年度予算額	増	減	
前年度繰越金	2,748,126	2,511,355	236,771		
入会金	4,000,000	4,200,000	-	200,000	800名
年会費	2,000,000	2,000,000	0		延1,300余名相当分
10年前納会費	900,000	870,000	30,000		60名
利子	350,000	100,000	250,000		国債利子28万円/年、定期預金利子3万円/他
基本金より繰入	15,041,874	15,838,645	-	796,771	
その他	1,300,000	0	1,300,000		名簿広告収入
合 計	26,340,000	25,520,000	820,000		

(2) 支出

(単位：円)

款 項 目	(A)	(B)	(A)-(B)		備 考
	17年度予算額	16年度予算額	増	減	
事業費	13,510,000	13,260,000	250,000		
内					
会員名簿発行準備費	1,350,000	1,350,000	0		名簿データメンテ
会報発行費	8,550,000	8,250,000	300,000		2回発行、動静はがきのシール等
新入正会員歓迎費	810,000	810,000	0		卒業、修了証書カバー
母校行事援助費	1,700,000	1,700,000	0		学会発表、課外活動
分収林管理費	50,000	0	50,000		
資料整備費	200,000	300,000	-	100,000	パンフレット制作等
活 動 費	850,000	850,000	0		支部総会補助金、祝金等
会 議 費	600,000	390,000	210,000		総会懇親会、副会長・支部長懇談会費他

事 務 費	9,960,000	9,600,000	360,000	
内				
手 当	2,300,000	2,200,000	100,000	
雑 給	2,700,000	2,800,000	-100,000	
備 品 費	200,000	250,000	-50,000	ボイスレコーダ、プリンター等
消 耗 品 費	800,000	800,000	0	
通 信 費	600,000	650,000	-50,000	
旅 費	2,700,000	2,250,000	450,000	総会・支部総会旅費、副会長・支部長懇談会宿泊費
事務用品印刷費	300,000	250,000	50,000	封筒印刷、名簿カード
慶 弔 費	60,000	60,000	0	
光 熱 水 費	200,000	200,000	0	
雑 費	100,000	140,000	-40,000	国債購入費を含む
支部・部会還元金	940,000	940,000	0	
職員厚生積立金	100,000	100,000	0	
そ の 他	30,000	30,000	0	
予 備 費	1,200,000	1,200,000	0	
支 出 合 計	26,340,000	25,520,000	820,000	
次 期 繰 越 額	0	0	0	

3. 特別会計予算

(1) 収入

(単位：円)

款 項 目	(A)	(B)	(C)	(A)+(B)+(C)
	会員名簿発行資金	職員厚生資金	事務整備費	合 計
前年度繰越金	21,997,108	708,406	0	22,705,514
繰 入 金	0	100,000	3,000,000	3,100,000
利 息	1,500	40	0	1,540
合 計	21,998,608	808,446	3,000,000	25,807,054

(2) 支出

(単位：円)

款 項 目	(A)	(B)	(C)	(A)+(B)+(C)
	会員名簿発行資金	職員厚生資金	事務整備費	合 計
支 出 合 計	20,000,000	0	3,000,000	23,000,000

(3) 特別会計残高

(単位：円)

款 項 目	(A)	(B)	(C)	(A)+(B)+(C)
	会員名簿発行資金	職員厚生資金	事務整備費	合 計
収入-支出	1,998,608	808,446	0	2,807,054

【別記4】会長、副会長

会 長 畑中 孝晴(農 31)(平成17・18年度)

副会長(平成17・18年度)

藤巻 宏(農 36) 宮本 譲(獣畜22)

草野 洋一(養蚕47) 西出 照雄(製糸41)

安藤 哲(植防47) 高井 英雄(織工31)

坂野 好幸(農化40) 町山 紀郎(工化39)

佐渡 篤(林産38) 渡辺 秀夫(織化33)

星野 義延(環保53) 澤田 孚夫(機械40)

松井 英輔(林 38) 宇野 亨(電気55)

田内 堯(農工35) 藤江大二郎(応物49)

本間 秀和(地生 H12) 岩澤 京子(数情56)

同窓会の個人情報の保護に関する対応について

同窓会会長 畑 中 孝 晴

同窓会では、平素より会員*の個人情報の保護に努めていますが、平成17年4月1日より個人情報保護法が施行されましたので、法律に則り同窓会の規則の制定およびその取扱いの整備を進めました。[*ここで会員とは、正会員、特別会員、準会員(学部学生および他大学を卒業した本学大学院生)、賛助会員、顧問をいう。]

同窓会では、個人情報保護法に対する対応として、本年3月常務理事会で、1)「同窓会の個人情報の保護に関する規則」、2)「個人データの安全管理に関する規程」、3)「個人データの安全管理に関する申し合わせ」を作成し、5月の総会に提案して誤字等の修正をした上で承認されました。

本会会員の個人情報の保護に関する**基本的事項**は、1)の「規則」として取り纏め総会での承認を必要とすることにしました。本規則では、個人情報の利用の目的の特定、個人情報の適正な取得、正確性の確保、個人情報の提供の制限、個人情報保護委員会の設置による安全管理措置および開示・訂正・苦情の処理等について定めています。

この規則に則って、2)では、個人データの安全管理に関する個人情報保護委員会の構成、保護管理者の指定、個人情報データベースへのアクセス規制、支部・部会等からの情報提供請求の方法、開示・訂正・利用の停止等の請求、異議申立と個人情報審査会による取扱い方法、個人情報取扱い窓口の設置等、請求様式を含む具体的取扱い、について定め、さらに、その安全管理の運用上必要となる保護委員会委員、管理者等の人選に関する事項は、3)の「申し合わせ」としました。「規程」、「申し合わせ」の策定および改正は常務理事会の所掌事項としました。これらの規定の詳細は、同窓会ホームページを参照頂くか、事務局にお問い合わせ下さい。

1)の「規則」で規定している本会で所有する会員の個人情報の内容および利用目的は次の通りです。**保有する個人情報**：会員氏名、旧姓・旧名、外国人認識情報、出身学部・大学院、出身学科・専攻、卒業・修了年、現住所、電話番号、郵便番号バーコード、学科・コース番号、勤務先所在地、電話番号、外字コード、会員の種別および会費納入状況

個人情報の利用目的：同窓会名簿の制作、新入正会員等の会誌(農工通信)への掲載、会員への各種連絡・配信、会費請求、会員の動静の把握、支部・部会への提供、会員への名簿閲覧、および母校またはその委託を受けた者、学科、専攻等と同等と見なしうる者および準会員の指導教員から教育研究遂行上必要とされ、常務理事会が妥当と認める場合の提供

ただし、人の生命、身体または財産の保護のために緊急に必要がある場合、国の機関もしくは地方自治団体等が法令の定めにより協力する必要がある場合は、総会および本人の同意を得ないで、個人情報を提供することとしています。

また、個人情報の正確性の確保や安全管理、開示・苦情等についても、規定に則り次のように対応します。

正確性の確保：農工通信および各種通信の着信状態を追跡調査することで正確性を確保します。

保護管理、安全管理、監督の徹底：個人情報の保護管理を徹底するために個人情報保護委員会および管理者をおき、データベースのセキュリティーも高めます。

委託先の監督：同窓会名簿等の制作で、個人情報の取扱いを委託する場合は、個人情報の取扱いに関する契約を締結します。

開示・訂正・苦情処理：開示、訂正、苦情等はその都度受け付け対応します。対応に異議のある場合は個人情報審査会で審議します。

本会では、以上のように規則等を整備して会員各位の個人情報の保護に厳しく努め、規定した利用目的の外に使用しません。総会の了承を得たところですのでご報告いたします。なお会員名簿を従来通りの内容で作成する準備をしております。これまでにお申し出頂いた以外の方で、今回の名簿について掲載を希望されない方は、8月末日までにお申し出ください。お申し出のない場合は掲載をご了承頂いたものとさせていただきます。

以上

平成16年度学生援助事業実施一覧

1. 学会発表 (29件)

- (1)山田 忍(連農), 果樹単作地域における等質的農業地域の動態的变化—山梨県一宮町を事例として—, 北海道, 2004.7
- (2)藤本昌子(農), ワイン特区制度がワイナリーの経営展開に与える影響について, 北海道, 2004.7
- (3)野田 浩(連農), 沖積砂礫地に成立するコナラ林の組織的特徴, 北海道, 2004.8
- (4)岩淵祐子(連農), 関東地方におけるコナラ果実形態の3年間の比較とその形態変異に関わる要因の一考察, 日本生態学会, 北海道, 2004.8
- (5)蛭間 啓(連農), 冷温帯生広葉草本種が示す生育立地の地理的差異に関わる環境要因, 北海道, 2004.8
- (6)根本真理(農), 里山地域における植物の種類, 面積, 群落多様性の関係—関東の丘陵地における事例—, 北海道, 2004.8
- (7)張京花(連農), Sulfate aerosol concentration flux and deposition velocity above red pine forests and paddy rice field, 日本農業気象学会, 福岡, 2004.9
- (8) Pedram Attarod(連農), Comparison of the evapotranspiration among a paddy field, cassava plantation and teak plantation in Thailand, 日本農業気象学会, 福岡, 2004.9
- (9) 陳 炫(連農), The toxicity of peroxides to several plants by atmospheric level concentration in the presence of ozone, 日本農業気象学会, 福岡, 2004.9
- (10) 張尚勛(連農), Diurnal and seasonal variations of the O₃ dry deposition velocity on a red pine forest and its relationship with microclimate factors, 日本農業気象学会, 福岡, 2004.9
- (11)小森大輔(連農), Improvement of the air sampling system for the true eddy accumulation technique, The Society of Agricultural Meteorology of Japan, 福岡, 2004.9
- (12)野中圭介(連農), Tillage and fertilizer effects on soil respiration and soil carbon content in andosol in Fuchu, Tokyo, The Society of Agricultural Meteorology of Japan, 福岡, 2004.9
- (13)中野洋子(BASE), 厩肥連用土壌に生育するトマト青枯病抑制に関わる微生物群の特定とそのメカニズム, 日本土壌肥科学会, 福岡, 2004.9
- (14)伊藤 梓(農), ポリリン(PL), アミノ酸による澱粉の糊化挙動の制御, 日本応用糖質科学会, 鹿児島, 2004.9
- (15)小田恵美子(工), ヒドロシリル化反応を用いた有機-無機ハイブリットゲル合成と構造制御 II, 高分子討論会, 北海道, 2004.9
- (16)菊地元三,(工), シクロオレフィンの開環メタセシス重合による主鎖に1,3-シクロペタン構造を有するポリエチレンの合成と結晶構造解析, 高分子討論会, 北海道, 2004.9
- (17)石垣 綾(農), 落葉広葉樹6種の落葉分解に及ぼす斜面—と化学組成の影響, 日本森林学会, 北海道, 2005.3
- (18)浦川梨恵子(連農), スギ・ヒノキ小領域における土壌中の窒素動態に及ぼす斜面下部伐採の影響, 日本森林学会, 北海道, 2005.3
- (19)喜多 智(連農), 選択的呼吸抑制法を用いた森林土壌

の呼吸に対する糸状菌と細菌の寄与率, 日本森林学会, 北海道, 2005.3

- (20)橋本 誠(連農), 含窒素ポリケチド化合物パママイシンの生合成における窒素導入段階の解明(第二報), 北海道, 2005.3
- (21)田村憲美津(農), 牛乳グリコマクロペプチドによる腸管感染症予防効果, 北海道, 2005.3
- (22)高野勝也(農), ポルフィラン修飾による分離大豆タンパク質の改質, 日本農芸化学会, 北海道, 2005.3
- (23)住吉 綾(農), 流出モデルパラメータと地形・地質・流域スケールの関連について, 日本森林学会, 北海道, 2005.3
- (24)田野(農), 長江上流域のカルスト地域における森林流域の水移動に伴う養分流出, 日本森林学会, 北海道, 2005.3
- (25)荒井知朗(農), 長江上流のカルスト地域における封山育林30ヶ所の林相と土壌の化学性, 日本森林学会, 北海道, 2005.3
- (26)宇野 司(農), 抗原とルーロの経口投与による誘導が阻害される経口免疫寛容の抑制機構の解析, 日本農芸化学会, 北海道, 2005.3
- (27)笹原由雅(農), タンパク質工学的手法を用いた糖鎖結合型バイオハイブリット創出によるβ-ラクトグロブリン(BLG)の低アレルギー化, 北海道, 2005.3
- (28)坂田穂行(農), 大豆タンパク質加水分解物の腸管感染予防効果, 北海道, 2005.3
- (29)青木 友(連農), メロンがんしゅ病菌 *Streptomyces* sp. の自己胞子発芽抑制物質, 日本農芸化学会, 北海道, 2005.3

2. 課外活動 (7件)

卓球部/バトミントン部/ごみダイエットNOKO/
サッカー部/児童文化研究会/ピアノ部/バレーボール部

3. 学園祭 (2件) 農学部/工学部

4. 優秀卒業論文 副賞 (7件)

- (1) 原田 慧,(農)生物生産学科, イチゴ数品種の果実成熟過程における糖含量と糖代謝関連酵素活性の変化
- (2) 丸谷永一,(農)獣医学科, 日本産野鳥の骨折の発生状況調査と治療成績向上のための実験的研究
- (3) 海堀理佳,(農)地域生態システム学科, マツノザイセンチュウを接種したクロマツ苗木に枯死率に影響を与えるストレス
- (4) 須賀陽介,(工)有機材料化学科, 超臨界流体中におけるダイヤモンドライクカーボンの作成および評価
- (5) 田代さとみ,(工)化学システム工学科, アルマイト触媒を用いたマイクロリアクターに関する研究
- (6) 猿橋 敦,(工)機械システム工学科, 加熱細管内における沸騰を伴う気液二相流の流動様式の評価
- (7) 田島孝治,(工)情報コミュニケーション工学科, P2P技術を用いた個人郵便局型メール配信システムの試作

5. キャリアアドバイザー支援

部会・支部・クラス会だより

支部・部会

項目	徳島	秋田	製糸部会女子部	青森	広島
日時	平成16年 10月22日	10月23日	10月27～29日	11月20日	11月21日
開催場所	笹乃庄	協働大町ビル	箱根湯本ホテル	ラプラス・青い森	鯉城会館
支部・クラス	支部総会	支部総会	女子部総会	支部同窓会	支部総会
理事派遣	なし	生原教授	なし	なし	なし
参加者数	7名	23名	8名	19名	7名
総会議事	収支報告		女子部活動報告	役員改選	会計報告 総会報告
講演、討論等	情報交換 懇親	情報交換 講演：「森林と水環境」	情報交換 観光	情報交換 親睦会	近況報告 今後の支部総会の開催



▶ 徳島県支部



▶ 秋田県支部



▶ 製糸部会女子部



▶ 青森県支部



▶ 広島県支部

支部・部会

項目	佐賀	愛媛	富山	福井	沖縄
日時	12月11日	平成17年2月15日	2月26日	3月5日	4月23日
開催場所	ますだ	メルパルク松山	庄川温泉ゆめつづり	八重寿司	メルパルク沖縄
支部・クラス	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会 一般向け講演会
理事派遣	なし	松岡教授	なし	なし	小原教授
参加者数	5名	20名	17名	12名	22名 一般の方：16名
総会議事		総会	会計報告	会計報告 連絡員交替	活動報告、収支決算及び活動計画
講演、討論等	懇親 討論会：「日本の 農業について」	懇親 講演：「農工大の 改革と近況」	懇親	CDによる 大学近況 情報	講演：「家族って何だ —動物行動学から見た家 族の起源、進化、変遷」



▶佐賀県支部



◀愛媛県支部



▶富山県支部



◀福井県支部



▶沖縄県支部

クラス会

項目	38Fクラス会	蚕業実科23年	ポプラ会	農学科(乙)クラス会	糸友会	昭和32卒業クラス会	武蔵野38人会
日時	平成16年 9月15日	10月10~12日	10月18, 19日	10月26, 27日	10月30日	11月7~9日	11月8, 9日
開催場所	芦原温泉 グランディア芳泉	指宿温泉 霧島温泉	川治温泉 「柏屋」	農林年金会館 パストラル	市ヶ谷 シャープビル内 みくに	香川・琴平温泉 グランドホテル	熱海 志ほみや
支部・クラス	S38年 林学科卒	S23 蚕業実科卒	S30 獣医学科卒	S22 農学科(乙)卒	S31 製糸学科卒	S32 獣医学科卒	S26 製糸学科卒
参加者数	22名	14名 (夫婦同伴)	16名	14名	14名	13名	20名
実施事項	情報交換 親睦	親睦	中禅寺湖観光 親睦	浜離宮恩賜公園	近況紹介 親睦	情報交換 親睦	親睦



▶38Fクラス会



◀蚕業実科23年



▶ポプラ会



◀糸友会



▶昭和32年卒業クラス会



◀武蔵野38人会

クラス会

項 目	牧風会	農工30年会	7318回	みそよ会	拓二会	わたらせ37会	繊維化学科 35年
日 時	11月9日	11月9～11日	11月13日	11月13,14日	11月26日	11月28,29日	12月12日
開催場所	愛知 犬山温泉	横浜 鎌倉	横浜 中華街「翠華」	本郷 つたや旅館	東京 学会館	米子全日空 ホテル	焼津 グランドホテル
支部・クラス	S22 獣医学科卒	S30農学科, 農業工学科卒	S52 林産学科卒	S34 獣医学科卒	S17 拓殖学科卒	S37 林学科卒	S35繊維一 化学科卒)
参加者数	15名	19名	12名	12名	6名	24名(うち夫婦 同伴8組)	17名
実施事項	情報交換 親睦	横浜みなとみらい 地区、山下公園 鎌倉古寺散策	横浜みなとみらい 散策 情報交換、親睦	情報交換 親睦	情報交換 親睦	大山大国一 観光	親睦

▶牧風会



◀農工30年会



▶7318回



◀みそよ会



▶拓二会



◀わたらせ37会



▶繊維化学科35年



クラス会

項 目	だしん会	卒業20周年記念	国眼研究室	獣医学科同期会	同期寮生の集い	獣医学科同期会
日 時	平成17年 2月11日	3月12日	3月20日	4月6, 7日	4月23日	4月23, 24日
開催場所	新宿 くらわんか	センチュリー ハイアット 東京	武蔵野 葡萄屋	横浜-ホテル KKRポートヒル	新宿 「モノリス」	熱海 南明ホテル
支部・クラス	S37 獣医学科卒	S59 林産学科卒	研究室卒業生 及び学生	S38 獣医学科卒	S27繊維学部 西ヶ原入寮者	S42 獣医学科卒
参加者数	12名	27名	20名	18名	15名	17名
実施事項	情報交換 親睦	情報交換 親睦	国眼教授 還暦祝い会 農工大見学	情報交換 親睦	情報交換 親睦	情報交換 親睦



▶だしん会



◀卒業20周年記念



▶国眼研究室



◀獣医学科S38同期会



▶同期寮生の集い



◀獣医学科S42同期会

掲 示 板

専門職大学院「技術経営研究科」開設

本年4月、技術経営研究科技術リスクマネジメント専攻が開設されました。本研究科は「技術リスクの最小化を図る能力の涵養」を目指し、技術リスクの最小化に配慮しながら先端技術を活用・展開してビジネスの創出ができる人材の養成、すなわち、優れたコーポレートガバナンスを遂行しうる「よき企業人」の養成を目指しています。

第1期生は、49名の入学生のうち、社会人学生が60%以上に達し、企業からの推薦者など幅広い職

歴・教育歴をもった社会人学生が入学しています。

カリキュラムはビジネスプラン等の実践的教育が組込まれ、授業は平日の夜間及び土曜日の昼間に、教室は小金井キャンパスのほか都心(田町教室)でも開講し、社会人学生が学びやすい環境になっています。

技術経営研究科は、時代が求める新しい学問と人材創出のモデルケースとして、大学院教育の新しいDNAとなる注目の研究科といえます。

「小金井キャンパス120年史」 (上製本、CD)の発刊と頒布

平成16年度は、東京農工大学工学部が1884年(明治17年)蚕病試験場として始まって以来120年目にあたります。これを記念し、工学部では「小金井キャンパス120年史」を上製本とCDとして発刊いたしました。120年の前半60年余を概観し、その後半の新制大学となってから国立大学としての最後の平成15年度までの60年弱をまとめました。ことに百年史出版後に起きた項目に重点を置き、さらに博士課程設置へのプロセスについて述べています。

つきまして、同窓生の皆様に上製本とCDをお分けしたいと存じますので、ご希望の方は右記の要領でお申出ください。

記

・上製本 A4版 243頁

・CD 最新バージョンのOS(Windows, Mac)

配布部数に限りがございますので、ご希望の方は次の問合わせ先に、メール、又は電話にてお申出ください。郵送料等(郵便為替)を含めた申し込み方法についてご案内させていただきます。締切りは9月末日です。

問合わせ先

〒184-8588

東京農工大学小金井地区総務チーム 庶務係

Tel: 042-388-7003

Email: tkshomu@cc.tuat.ac.jp

(工学部史料編纂小委員会 澤田孚夫)

「第10回農工大全OB囲碁会のお知らせ」

毎年全国よりOBが集合、更に現職の教職員、囲碁部の学生が参加して、親睦の輪が広がって来ております。蚕糸、繊維、農林、農工大全OBの碁会です。棋力の弱い方大歓迎です。

1. 期 日 平成17年11月27日(日) 午前9:30集合
2. 会 場 日本棋院(市ヶ谷)3F
3. 会 費 3,000円
4. 連絡先 須田浩行(農化S34卒)
TEL 03-3469-6891(勤務先)
TEL 0424-88-7833(自宅)

仲谷虎之助(農化S25)記

▼H17年版同窓会会員名簿発行について

平成17年版会員名簿は、本年11月に発行の予定で現在準備中です。

名簿発行にあたり、委託業者選定は、入札を行わない技術面、価格面での比較検討結果に基づいて行いました。

会員各位の個人情報につきましては、個人情報保護法に対応して、慎重な取扱いをするよう留意しております。

今回は前回に比し、会員が増加し、ページ数も増大する予定です。一般経済情勢は厳しい状況にあり、制作費用の圧縮を計らねばなりません。別途ご依頼いたしましたように、会員自営業者、会員在籍会社、一般会社による企業広告掲載に対するご協賛・ご協力を頂くよう計画いたしました。

*名簿発送対象の会員

- (1) 終身会員(終身会費3万円を納入の会員)
- (2) 10年分前納会員
- (3) 年会費として、平成13年度以降少なくとも3ヵ年度分合計4.5千円を納入頂いた会員

*住所・勤務先変更連絡票について

すでに、農工通信第74号でお知らせし、お願いしましたように、印刷日程の関係上、去る5月31日に締めさせていただきます。ご了承下さい。

▼農工通信発行について

本年度は、従来通り、年2回発行いたします。

次年度以降につきましては、年1回の発行とすることも含めての検討を進めます。発行を年1回にすることについて、ご意見がございましたら、事務局までお知らせいただければ幸いです。

慶 弔

慶 事 お祝い申し上げます

平成17年春の叙勲

岡田 幸助(林 28香川県支部長)	旭日小綬章
石阪 英男(農化32)	瑞宝小綬章
宮原 典弘(織工34)	瑞宝小綬章

弔 事 ご冥福をお祈りいたします

中村 克哉	名誉教授
佐藤 仁彦	名誉教授

事 務 局 だ よ り

▼お知らせ

本75号には、同窓会支部長・支部連絡先及び平成16、17年度常務理事は掲載しておりませんので、同窓会ホームページを参照して頂きますようお願い申し上げます。

▼同窓会事務局、夏季休業のお知らせ

今年の夏季休業は、8月10日(水)～18日(木)といたしますのでご案内申し上げます。

編 集 後 記

今年は5月上旬の東日本の低温、東北・北陸の入梅の遅れによる水不足、7月には大雨による洪水と不安定な天候が続き、農作物への影響が心配されます。

75号では、3月に行われた卒業式および4月の入学式のご祝辞、卒業生のことは、新会員の名簿を掲載いたしました。また新学長になられた小畑先生はじめ、副学長の方々から同窓会の皆様へのあいさつ文を執筆いただきました。

国立大学法人2年目となり、産官学の連携を強化し、教育研究の多くの分野で今後ますます同窓会員の方々の情報交換が重要となります。農工通信を通じて大学での研究活動などの情報発信を積極的に行い、同窓会員の皆様からのご寄稿を掲載していきたいと思っております。

(大川泰一郎 記)

農工通信 第75号

平成17年(2005年)7月20日
発行所 東京農工大学同窓会
連絡先 〒183-8538東京都府中市晴見町3-8-1
 東京農工大学同窓会事務局
 〈TEL 042(364)3328〉
 〈FAX 042(335)3500〉
 e-mail:dosokai@cc.tuat.ac.jp
 http://www.tuat.ac.jp/~dousou/
 振替口座 00120-9-93147番(加入者負担)
 加入者名 東京農工大学同窓会